

教えてドクター 膝関節の専門医に聞いてみました！

先進的なロボット技術で より正確な膝の手術を可能に

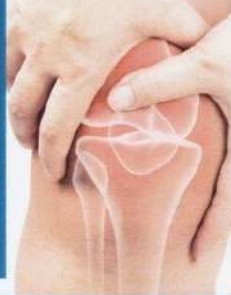
膝の軟骨がすり減って関節が変形する「変形性膝関節症」の患者さんは、全国で推定約1000万人。そのうち、年間で人工膝関節の手術を受ける患者さんは約9万5000人いると言われています。

近年は、医療技術の進歩により「手術支援ロボット」が導入され、より精度の高い技術が注目を浴びています。今回、名戸ヶ谷病院 整形外科の國府幸洋先生に、膝の痛みや多様な治療の選択、新たな治療法などについてお話を伺いました。



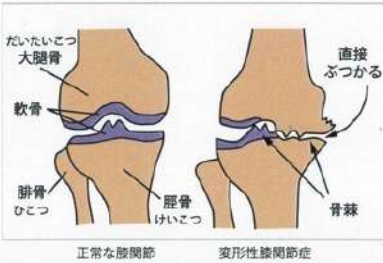
國府 幸洋 先生
名戸ヶ谷病院
副院長 / 整形外科部長

＜プロフィール＞
日本整形外科学会専門医、日本手外科学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本骨関節学会認定医、リウマチ子付位登録医



早期の受診で広がる選択肢

膝の痛みの原因には、加齢や使い過ぎによる軟骨のすり減り、スポーツ、事故などによる外傷、関節リウマチの炎症によるものなど様々あります。なかでも最も多いのが「変形性膝関節症」です。階段の昇り降りが難しくなったり、外に出るのが億劫になつてしまつたり、膝の痛みを我慢し続けていることによつて、生活動作に支障をきたしている方がとても多くいらっしゃいます。



膝の変形の程度にもよりますが、早い段階であれば、色々な選択肢からご自身に合った治療法を選択することができます。一度整形外科を受診されることをお勧めします。

協力：ジンマー・バイオメット

広告

治療には多様な選択肢がありますが、まずは痛みを取り除くために鎮痛剤の投与やヒアルロン酸の関節内注射を行います。体重増加による膝の負担もあるので、減量も必要です。膝の動きが悪くなっている方もいますので、固まつてしまった関節をほぐすストレッチや膝の変形を予防するための大腿四頭筋の筋力トレーニングなどがあります。また、靴の中に入れる足底板という装置で、関節の安定性を改善して症状の悪化を食い止めます。この治療法で改善が見られない



人工膝関節置換術

手術支援ロボットで より正確な手術が可能に

こうした不安を和らげて、より正確な手術を受けていただくための先進的な医療として、手術支援ロボットの導入が進んでいます。その技術は、正確な骨の位置、関節の靭帯、周りのやわらかい組織も含めたバランスを手術中に精密に捉えることができます。0.5mm

い場合は手術が検討されます。ただ、いきなり手術に踏み切るには抵抗がある。事情があつて受けれないという方には、手術の前段階の治療法として再生医療があります。再生医療と言つても膝をまつすぐにするわけではなく、痛みを緩和させる治療です。APs(自己タンパク質溶解療法)といひ、患者さんご自身の血液から傷を修復したり、炎症を抑えたりする成分を高濃度に抽出して、患部に注射します。炎症を抑えることで、関節内の軟骨破壊や環境の悪化を防ぐことが期待される治療です。

そのなかでも痛みや腫れを取り除き、変形を治す効果が最も高いのが「人工膝関節置換術」です。通常であれば1時間から1時間半程度の手術になります。が患者さんの多くが心配していることのひとつに術後の痛みがあります。近年は疼痛コントロールできるような多角的な疼痛抑制管理を行っているので、昔に比べて飛躍的に改善されています。自分が高齢だからと諦めてしまつ方や、手術に耐えられないかもしれないという方もいます。が、まずはきちんとした検査を行うことで、ご自分の体を知っていただくことが大切です。

0.5度単位での微調整ができ、より精度の高い手術が期待できます。無駄に組織を削がしたり、骨を削り過ぎたりすることが少なく、術後の痛みの軽減や早期の機能回復を助けるので、患者さんにとって負担の少ない手術だと言えます。ロボット手術といつても判断を下し、執刀するのはあくまで医師です。ロボットは医師の経験や技術を尊重しながらサポートしてくれるので、正確性の高い手術手技の実施が可能となります。今後は患者さんのライフスタイルや背景をしっかりと捉えて、どついう膝を自指すのか、一人ひとりの患部の状態に応じた個別化治療（オーダーメイド手術）というもつつの目標になつていくでしょう。

また患者さんと病院との関係はこれだけではなく、さらに術後の回復をサポートしていくためにもスマートフォンと連動して手術後の患者さんの状態が2、6週間後の様子まで分かるようになってきました。とくに今の時期は、頻りに病院に足を運べない方や不安な方は少なくありません。家でも必要な運動や運動量が分かり、定期的なフォローアップが可能なので通院負担を減らします。また、腫れや痛みなどに関しても写真や動画を送るメッセージ機能等を参照しながらであれば早期のトラブルにも対応できます。

まずは自分の体を知ってほしい。コロナ禍ではありますが、医療従事者は患者さんが安心してケアや医療を受けられる環境を作つて待っています。痛みを我慢せず、早めに受診していただくことで再生医療、ロボット支援手術なども含め、いろいろな治療の選択肢があります。高齢だからと諦めず、まずは自分の体の状態を理解し、そのうえで治療法を一緒に考えていきましょう。

関節の悩みを相談できる
整形外科専門施設を掲載しています

電話無料相談 ☎0570-783855
お気軽に電話ください
【平日10:00-17:00】
※通話料は通話者負担。相談料は無料です

<https://www.jinko-kansetsu.com/> 人工関節ドットコム 検索

